

佐伯史談

第二六号

「郷土史研究」誌
通算百二十八号

昭和五十三年十二月三十日発行

佐伯史談会

事務局 佐伯市大字稻垣字龍藏寺 羽柴芳

提言

図書館と資料館

— 文教都市としての前進を望む —

佐伯史談会

副会長 羽柴 崇

弘

先月下旬私共史談会は、佐伯文化会館の一室を借りて、「藩祖高政公遺品展」を開催した。それは芸術祭としての一連の企画行事であったが、それも單なる参加でなく、藩祖の没後三百五十年というところで、昨年秋の催しをうけての今年であった。そして昨年は民政に意を注いだ古文書資料を展示したが、今年は武將としての高政像を正面に出した。これはたけのご理解がたいだけたことか。

初日は勤勞感謝の日に当り、芸術祭の行事や、ふるぎと祭りかゝるいろいろ催しが重なった關係か、予想以上の參觀者があり、用意していた二百枚の解説書は午後二時ごろには足りなくなり、その後ドツと詰めかけた入場者に、会場はかぎり混雑した。

二日目も三日目も引きつづき觀客があり、思わぬ方々もお出でになり、熱心にご覽下さった。史談会の幹部連

はいつも何人が詰めこめていて、案内・解説に当たった。三日間を通じて、恐らく六百数十名が入場者と思われろ。そうした三日間の混雑の中で、何人からも希望や所見を承った。概していえば、佐伯開市の恩人ともいべき藩祖高政に対する理解の足りなさが感ぜられたが、中にはその遺品と共に当地毛利家土蔵内の、大量の藩政史料の放置を憂え、これらを今のうちで完全修理し、安全保管を願ふこと、そしてこれらは毛利家の私有物ではあるが、われわれ佐伯藩三百年の歴史の裏付けとなる貴重な文化財である以上、御上人に祈を見ては公開展示が望ましい。従ってこれを關係方面に働きかけ、これらを完全に格納・保存のできる資料館の建設運動を、史談会が先頭に立つてやってほしいというのである。まことに積極的なき意見である。私

本号の内容

- 提言 図書館と資料館(羽柴弘)……
- 研究 佐伯と國水田独歩(山本保)……
- 報告 中國訪問記(吉藤田木)……
- 遺書 藩祖佐伯村お辰の書(山本保)……
- 伝承 切畑山と水ヶ谷(吉田録)……
- 乳蘇 おかふること(吉藤田木)……
- 再探 亦正村雜記(山本保)……
- 復讐 思い出の食(山本保)……
- 遺像 長良貝塚と調査(山本保)……
- 調査 上水道完成記念碑(山本保)……
- 旅行記 四國(函)の旅(山本保)……
- 探り 千原具佐倉のこと(山本保)……
- 会員活動 寄附料受金報告(山本保)……
- 集會案内 編集後書き(山本保)……

は個人的に賛意を示し、史談会としてもその方向に動いたらと考えている。

依え聞くところ佐伯市は、来年度中に、市立図書館を建設する由である。この図書館については、いふん久しい前から主張し、佐伯市にも申し入れ、その早期実現を希望しつづけて来た。藩政時代八万冊に及ぶ「佐伯文庫」をもつていた佐伯は、古民け左木造の建物、薄暗くてろくな施設としてない図書館である。心ある人々は異口同音にこのことを指摘する。私が私淑していた今川故人山田平之丞氏は、その健筆をもってこれらのごときを力説し、「地下の寛龍公が泣いている」となげかれていた。

幸いに佐伯市は、二千数百冊の「佐伯文庫本」と、一万点に近い古文書や「藩政史料」を、先年の櫓門修復の時点で毛利家から貰いうけている。その整理も終り目録化もすんだ模様である。市民はその公開を待望している。しかし先立つものは図書館であり、資料格納の施設である。

恐らく来年度中に実現するであろう市立図書館には、膨大な図書・文書資料を完全格納する、書庫・收藏庫が完備され、一般市民の閲覧室も展示室、特殊研究者に目録による資料提供とその研究室、録取に要する付帯施設などについて、充分考慮されていることだろう。

ここで私は、單なる図書館資料を收藏する資料室というものでなく、図書館に隣接して独立した建物、右付ければ「歴史民俗資料館」といったものがほしいと模索したい。それには毛利家と交渉して土蔵の中に眠っているおびただしい数量の、武器・調度品・家具などを収容し、砂湿・防虫・火災からこれを文化財と守ろうというのである。

それだけでなく市民（郡部も含む）のもつ文化財も預か

り、折にふれは展示公開し、すべからず文化財に次々と接し、大いに教養を高めることにしてはどうだろうか。

尚今一つ、佐伯市に限らず郡内八ヶ所村、いづれも民俗資料を集めてはいるが、どこも置場に困っている。薄江町は漁具を大量に集め、すべに県から民俗文化財の集蔵が認められてはいるようだが、むしろ佐伯地域は広域園の立場から、佐伯の資料館とその中央館（センター）とし、各町村のはその分館として、それぞれ特色ある民俗資料館として育てたらどうだろうか。

そのことは先の話であるが、とにかく図書館に隣接して、歴史と民俗についての資料收藏の小博物館を建設しては、との提案であるが、今のところ経済基盤の貧困な佐伯市、しかも多くの臨海企業が軒並みに、また市中にはおる中小の商社、倒産も不況にあえいでいる時として、多くは望めないまでも、そのような方向に進む呼びかけは早すぎるとは言えない。せめてこの際用だだけども考慮してほしい。

大分市には県立の芸術会館が出来、別府市には美術館、日田市には博物館があり、資料館としては大分市、国東町、臼杵市とすでにあり、安岐町が近く完成するとか。立派な佐伯市は追いつけ、追いつけである。とくに文教の上では歴史をもつ佐伯市である。ここで奮起一番、積年の願望達成に、数歩前進しようではないか。

勿論、俗にいう「半前の飛石から渡れ」と。今は市立図書館の実現が先である。そしてその次、その次と大小の飛石はある。その一つがどうもこの「佐伯歴史民俗資料館」だと思ふのだが、どうだろうか。

以上少々くどくなつて恐縮であるが、史談会の方々はもとより、心ある郡市民の方々のご声援と、ご協力を希望するものである。

(おかり)